

社会的公正事態への対処方略とその有効性の検討

森上幸夫*¹ 中村慎佑*² 西迫成一郎*³ 桑原尚史*⁴

Coping Strategies for Social Injustice and Their Effectiveness

Yukio Morikami*¹ Shinsuke Nakamura*²
Seiichiro Nishisako*³ Takashi Kuwabara*⁴

Abstract

In this study, we first examined how people have coping strategies for social injustice and secondly analyzed the effectiveness of these strategies. We administered two questionnaire surveys.

We found four types of coping strategies for social injustice: 1. need for coping by anyone, 2. need for coping by a party, 3. behavioral coping by oneself, 4. emotional coping by oneself. We also determined that there were few differences in effectiveness between the four strategy types.

キーワード

社会的公正事態 対処方略 対処方略の有効性

問 題

世の中の制度や仕組みのいくつかは矛盾に充ち、その非合理性は目に余ることがある。また、一部の組織は存続のための活動に疲弊した挙げ句、所属成員に不条理をおしつけることがある。そして、ある他者は身勝手に横暴な振る舞いを繰り返し、その理不尽さで周囲を辟易させることがある。

我々が社会の中で経験する非合理、不条理、理不尽を不公正な事態と呼ぶなら、その社会的公正事態に直面した人はいかなる基準により不公正であると感じるのであろうか。このことについて、中村・西迫・森上・桑原（2006）は社会的公正事態に対する公正の

*1 もりかみ ゆきお：大阪国際大学人間科学部教授（2015.12.4 受理）

*2 なかむら しんすけ：大阪国際大学非常勤講師

*3 にしさこ せいいちろう：相愛大学人文学部准教授

*4 くわばら たかし：関西大学総合情報学部教授

Table 1 社会的公正事態の4つの類型と各項目

公共的不公正事態
1 図書館で大きな声で話す人がいること
2 交通ルールを守らない人がいること
3 喫煙が禁止されている場所で煙草を吸う人がいること
4 電車内で携帯電話で大声で話す人がいること
5 電車で降りる人よりも先に乗る人がいること
6 ペットの飼い方のマナーを守らない人がいること
7 歩きながら煙草を吸う人がいること
8 違法駐車をする人がいること
9 電車内でヘッドホンから音が漏れること
10 違法駐車が見過ごされていること
11 ところかまわず座りこむ人がいること
12 授業中に私語をする人がいること
13 ぶつかっても謝らない人がいること
14 乱暴な運転をする人がいること
15 深夜に暴走族がうるさいこと
16 本屋で読んだ本を元に戻さない人がいること
17 混雑した車内で座席に荷物を置いたままの人がいること
18 順番待ちの列に割り込む人がいること
人道的公正事態
1 戦争が行われていること
2 人を殺す人がいること
3 児童虐待があること
4 未成年者が凶悪犯罪を起こすこと
5 貧富の差があること
6 弱い者いじめをする人がいること
7 世界の中で飢餓が存在する国があること
8 核兵器を保有している国があること
経済的不公正事態
1 税金が高いこと
2 土地が高いこと
3 銀行で手数料を取られること
4 学費が高いこと
5 銀行の利息が少なすぎる
6 分かりにくい授業をしている先生がいること
7 携帯電話の料金が安いこと
对人的公正事態
1 自分の考えをおしつける人がいること
2 自分の責任を他者に転嫁する人がいること
3 自分の責任を果たさない人がいること
4 相手によって態度を変える人がいること
5 嘘をつく人がいること
6 常に自分が正しいと思いこんでいる人がいること
7 約束を守らない人がいること

判断基準を検討したところ、公共的道德規範からの逸脱、自己の経済的な損失状況、人権侵害状況、対人的道德規範からの逸脱状況、権力者の不正行為状況、特定者間における権利侵害状況という基準があることを明らかにした。

さらに、社会的不正事態の詳細を検討するために、中村・西迫・森上・桑原（2008）は社会的不正事態を40項目に集約し、その類型化を試みた。その結果、社会的不正事態は「図書館で大きな声で話す人がいること」、「交通ルールを守らない人がいること」、「喫煙が禁止されている場所で煙草を吸う人がいること」などの項目で構成される公共的不公正事態、「戦争が行われていること」、「人を殺す人がいること」、「児童虐待があること」などの項目で構成される人道的不正事態、「税金が高いこと」、「土地が高いこと」、「銀行で手数料を取られること」などの項目で構成される経済的不公正事態、「自分の考えをおしつける人がいること」、「自分の責任を他者に転嫁する人がいること」、「自分の責任を果たさない人がいること」などの項目で構成される対人的不正事態の4つの事態に分類されることをみいだした（Table 1）。

ところで、このような社会的不正事態の遭遇は避けられないという諦念を受け入れる一方で、我々はこれらの事態を認識した後に、何らかの対処の手段や方法を有する必要性にせまられる。なぜなら、社会的不正事態はネガティブな感情を引き起こすと考えられ、その感情を緩和するための対処方法を採用して、可能な限り速やかに精神的負担を低減しなければならないからである。この点について、中村ら（2008）は社会的不正事態を類型化したうえで、ある特定の社会的不正事態が怒り、軽蔑、嫌悪などのネガティブ感情と関連することを指摘している。したがって、社会的不正事態への対処方略が実際に存在するのかを把握すること、そしてその対処方略の効果を検討することは社会的不正事態と感情喚起の過程を議論するためにも有意義であると言える。

そこで本研究は、公共的不公正事態、人道的不正事態、経済的不公正事態、対人的不正事態の4つに類型化された社会的不正事態各々に関して対処する方略があるのか、もしその対処方略があるならいかなる対処方略であるのか、またその対処方略は現実にも有効であるとみなされているのかを検討する。

予備調査

目的

人は社会的不正事態に対していかなる対処方略をとると考えられるのかについて検討することを目的とした。

方法

調査協力者：男性18名、女性29名、計47名の大学生が調査協力者となった。

材料：中村ら（2008）で得た公共的不公正事態、人道的不正事態、経済的不公正事態、対人的不正事態の4種類の社会的不正事態に関する質問項目40項目を用いた。その社会的不正事態40項目それぞれについて「解決手段、打開策、回避策、修復案などの対応

Table 2 社会的公正事態に対する対処方略の回答の整理・分類例

(一部抜粋：他 38 項目も同様に整理・分類)

「図書館で大きな声で話す人がいること」への対処の回答 (ほぼ原文)	文章整理後の項目
別の席に移動する 司書の人に注意してもらい、掲示してもらい	別の席に移動する 図書館司書に注意してもらい 静かにするよう掲示する
静かにするよう注意をする、もしくはほしてもらう	相手に静かにするよう注意する 図書館司書に注意してもらい
館員を介して、もしくは直接注意する。その場から立ち去る	図書館司書に注意してもらい 相手に注意する その場から立ち去る
気になるが放っておく 図書館の人に「うるさいので注意をお願いします」と言う 図書館の人に言って、注意してもらい イヤホンをして音楽を聴く 注意する；図書館の人に言う	気になっても関わらないようにする 図書館司書に注意してもらい 図書館司書に注意してもらい イヤホンをして音楽を聴く 相手に注意する 図書館司書に伝える
直接注意する；係員に報告する	相手に注意する 図書館司書に伝える
受付等の人に注意してもらいよう促す 注意する監視員をおく、聞かなければ徹底的に外に出す	図書館司書に注意してもらい 図書館に監視する人をおく うるさい人々を図書館から退場させる
気にせずそのまま本を読む 事務の人が注意する その人に気づいてもらえるように凝視する	気にしないで本を読む 図書館司書に注意してもらい 相手が気付くまで凝視する
.....
「交通ルールを守らない人がいること」への対処の回答 (ほぼ原文)	文章整理後の項目
その人が悪いので何があっても知らないと思う ルールを守るように看板を立てる 危ないなあと思う。知り合いなら注意する	相手に問題があると思う 交通ルールを守るように看板を立てる 危ないと思う
身近な人が気付き、いかに危ないことか論ず 気になるが放っておく 警察へ交通巡回をお願いする 警察に言うって注意してもらい 危ないー！と思う 無視	知り合いなら注意する 身近な人間が注意を促す 関わらないようにする 警察に巡回するよう要請する 警察が取り締まりを強化する 危ないと思う 無視する
嫌な気分になる 危ないよってことを教えてあげる 自分を守ろうと心に決める 看板を立てる；警察にパトロールをお願いする	不快な気分になる 相手に危険性について教える 自分だけは交通ルールを守ろうと思う 交通ルールを守るよう看板を立てる 警察にパトロールをお願いする
無視 無視する；注意する	無視する 相手に注意する
警察に通報する；出来るだけ避ける	警察に通報する 相手に近づかない
顔発地帯であれば管理する人を配置 注意する	交通ルール違反を監視する人を配置する 相手に注意する
.....

社会的公正事態への対処方略とその有効性の検討

手段を提案するとしたら、どのような対応手段があると思いますか？ あなたが考える対応手段を、どのようなことでも構いませんのでご回答ください。」と記して、いかなる対処の仕方があるかを問う質問が記載された自由記述法を採用した質問紙を作成した。

手続き：授業時間中に質問紙を配布し、対処方略を1つ回答することを求めた。1つ以上ある場合は並記して回答してもよいとした。調査に要した時間は約20分間であった。調査は2010年6月に実施した。

結果と考察

予備調査から得られた記述について解釈困難な回答を除外したところ、計2,758件の記述が得られた。これらの記述の意味内容を吟味し、整理し分類した（Table 2）。その結果、社会的公正事態に対する対処方略は、「不正事態を引き起こした当事者ではない誰かに対応を求める」といった第三者への対処要求、「不正事態を引き起こした当事者に状況の改善を求める」といった当事者への対処要求、「不正事態に直面した自分が解決をはかろうとする」といった自己の行動的対処、「不正事態に直面した自分の気持ちを切り替えようとする」といった自己の情緒的対処という4つの対処方略に大別することができた。

このことから、不正事態の対処方略は当該の不正を引き起こした当事者および第三者といった他者による事態の改善および修復を求めていること、そして自らの行為や心的活動といった自身による事態の改善および修復をはかろうとすることが理解できる。したがって、人は社会的公正事態の対処について人為的な働きかけが必要であると考えていると言えよう。

本 調 査

目的

本調査においては、予備調査で得られた第三者への対処要求、当事者への対処要求、自己の行動的対処、自己の情緒的対処という4つの対処方略を取り上げ、社会的公正事態の40項目および公共的不公正、人道的公正、経済的不公正、对人的公正の4つの事態において各対処方略の有効性の評価が異なるのかを検討することを目的とした。

方法

調査協力者：男性103名、女性140名、計243名の大学生が調査協力者となった。

材料：予備調査と同じ社会的公正事態40項目を用いた。これらの社会的公正事態に対して4つの対処方略ごとに「この対応手段は問題の解決に効果があると思う」という設問に「まったくあてはまらない(1)」から「ひじょうにあてはまる(7)」までの7段階のうち1つを選択するよう求めた不正事態への対処方略の有効性を問う質問紙を4種類作成した。

手続き：授業時間中に4つの対処方略ごとに作成した4種類の質問紙を各調査協力者がいずれか1種類を回答するように配布した。調査に要した時間は約25分間であった。調査

は2010年11月に実施した。

結果と考察

まず、4つの対処方略ごとに作成した質問紙への回答者数を算出したところ、次のとおりであった。第三者への対処要求は男性25名、女性32名、計57名、当事者への対処要求は男性28名、女性38名、計66名、自己の行動的対処は男性24名、女性36名、計60名、自己の情緒的対処は男性26名、女性34名、計60名であった。

次に、社会的不公正事態40項目における全対処方略を統合した場合における対処の有効性の記述統計量を算出したところ、Table 3のとおりになった。有効性の平均評定値の上位を取りあげると「図書館で大きな声で話す人がいること」、「混雑した車内で座席に荷物を置いたままの人がいること」、「授業中に私語をする人がいること」となっていて、これらは全て公共的不公正事態であった。その一方、有効性の平均評定値の下位を取りあげると「核兵器を保有している国があること」、「貧富の差があること」、「戦争が行われていること」であり、これらは全て人道的不公正事態であった。このことから、公共的不公正事態については対処をとるよう動機づけられていたり効力感をもっていたりする可能性が考えられ、逆に人道的不公正事態については対処することに無力感をもっていることが推測できる。

また、社会的不公正事態40項目における第三者への対処要求、当事者への対処要求、自己の行動的対処、自己の情緒的対処の4つの対処方略ごとの有効性の記述統計量を算出したところ、Table 4のとおりになった。全ての対処方略の有効性は「まったくあてはまらない(1)」から「ひじょうにあてはまる(7)」までの7段階で評定されていることから、評定が(4)を超えるものは「対処が有効である」とみなしていると考えられる。この点から対処方略ごとの有効性の平均評定値をみると、第三者への対処要求は「混雑した車内で座席に荷物を置いたままの人がいること」の1項目、当事者への対処要求は「図書館で大きな声で話す人がいること」、「電車内で携帯電話で大声で話す人がいること」、「混雑した車内で座席に荷物を置いたままの人がいること」、「順番待ちの列に割り込む人がいること」の4項目、自己の行動的対処は「図書館で大きな声で話す人がいること」、「混雑した車内で座席に荷物を置いたままの人がいること」、「順番待ちの列に割り込む人がいること」の3項目で対処方略の有効性の平均評定値が(4)を上回っている。自己の情緒的対処は該当する項目がなかった。このことから、いずれの社会的不公正事態についてもその対処方略の有効性は高いとは言えず、人は不公正事態に様々な対処の手段をもちながらもその効果に期待していないことが理解できる。特に、自己の情緒的対処に限れば全ての社会的不公正事態に対してほぼ無効であるとみなして差し支えないであろう。おそらく、人は不公正な事態に直面して自らの気持ちを切り替えるという手段は、根本的に事態を改善する対処とならないことを知りながら、その対処方略をとっていると思われる。むしろ、根本的な事態改善を望んでいない場合、またそれが望めない場合に自らの情緒レベルで「対処した」とみなしたいと考えられる。

そして、社会的不公正事態の4類型における第三者への対処要求、当事者への対処要求、

社会的公正事態への対処方略とその有効性の検討

Table 3 社会的公正事態における全対処方略を統合した場合の有効性の記述統計

番号	項 目	全対処方略の有効性	
		Mean	(SD)
1	図書館で大きな声で話す人がいること	3.75	(1.82)
2	交通ルールを守らない人がいること	3.04	(1.93)
3	喫煙が禁止されている場所で煙草を吸う人がいること	3.17	(2.07)
4	電車内で携帯電話で大声で話す人がいること	3.28	(1.98)
5	電車で降りる人よりも先に乗る人がいること	2.52	(1.83)
6	ペットの飼い方のマナーを守らない人がいること	2.95	(1.97)
7	歩きながら煙草を吸う人がいること	2.58	(1.97)
8	違法駐車をする人がいること	2.93	(2.02)
9	電車内でヘッドホンから音が漏れること	3.12	(2.02)
10	違法駐車が見過ごされていること	2.70	(1.93)
11	ところかまわず座りこむ人がいること	2.94	(1.94)
12	授業中に私語をする人がいること	3.52	(1.92)
13	ぶつかっても謝らない人がいること	2.70	(1.98)
14	乱暴な運転をする人がいること	2.83	(1.87)
15	深夜に暴走族がうるさいこと	2.16	(2.10)
16	本屋で読んだ本を元に戻さない人がいること	3.19	(1.93)
17	混雑した車内で座席に荷物を置いたままの人がいること	3.73	(1.96)
18	順番待ちの列に割り込む人がいること	3.40	(2.03)
19	戦争が行われていること	1.95	(2.08)
20	人を殺す人がいること	2.05	(2.09)
21	児童虐待があること	2.90	(2.23)
22	未成年者が凶悪犯罪を起こすこと	2.41	(2.03)
23	貧富の差があること	1.93	(1.97)
24	弱い者いじめをする人がいること	2.72	(2.00)
25	世界の中で飢餓が存在する国があること	2.28	(2.06)
26	核兵器を保有している国があること	1.69	(1.94)
27	税金が高いこと	2.19	(1.91)
28	土地が高いこと	2.03	(1.81)
29	銀行で手数料を取られること	2.09	(1.97)
30	学費が高いこと	2.47	(2.02)
31	銀行の利息が少なすぎる	2.01	(1.84)
32	分かりにくい授業をしている先生がいること	3.22	(2.13)
33	携帯電話の料金が安いこと	2.62	(2.07)
34	自分の考えをおしつける人がいること	2.96	(2.00)
35	自分の責任を他者に転嫁する人がいること	2.86	(1.93)
36	自分の責任を果たさない人がいること	2.98	(1.92)
37	相手によって態度を変える人がいること	2.59	(1.95)
38	嘘をつく人がいること	2.58	(1.94)
39	常に自分が正しいと思ってる人がいること	2.52	(1.99)
40	約束を守らない人がいること	2.92	(2.04)

Table 4 社会的公正事態における4つの対処方略の有効性の記述統計

番号	項目	第三者への対処要求	当事者への対処要求	自己の行動的対処	自己の情緒的対処
		の有効性 Mean (SD)	の有効性 Mean (SD)	の有効性 Mean (SD)	の有効性 Mean (SD)
1	図書館で大きな声で話す人がいること	3.88 (1.52)	4.55 (1.49)	4.15 (1.71)	2.35 (1.77)
2	交通ルールを守らない人がいること	3.16 (2.08)	3.59 (1.73)	3.25 (1.76)	2.10 (1.87)
3	喫煙が禁止されている場所で煙草を吸う人がいること	3.75 (1.94)	3.77 (1.96)	3.27 (1.89)	1.87 (1.92)
4	電車内で携帯電話で大声で話す人がいること	3.23 (1.96)	4.33 (1.65)	3.50 (2.05)	1.97 (1.50)
5	電車で降りる人よりも先に乗る人がいること	1.67 (1.71)	3.12 (1.83)	2.90 (1.77)	2.28 (1.69)
6	ベットの側の方のマナーを守らない人がいること	3.21 (1.94)	3.64 (1.77)	3.20 (1.89)	1.72 (1.77)
7	歩きながら煙草を吸う人がいること	2.51 (1.97)	3.33 (1.92)	2.58 (1.89)	1.82 (1.83)
8	違法駐車をする人がいること	3.95 (1.87)	3.35 (2.00)	2.57 (1.81)	1.88 (1.83)
9	電車内でヘッドホンから音が漏れること	2.77 (1.91)	3.73 (2.01)	3.42 (1.95)	2.47 (1.98)
10	違法駐車が見逃されていること	3.07 (2.06)	3.12 (1.88)	2.50 (1.82)	2.07 (1.82)
11	ところかまわず裸りこむ人がいること	3.12 (1.92)	3.36 (1.91)	3.15 (1.95)	2.10 (1.76)
12	授業中に私語をする人がいること	3.72 (1.92)	3.83 (1.82)	3.92 (1.63)	2.60 (2.04)
13	ぶつかっても謝らない人がいること	2.19 (1.96)	2.79 (2.06)	2.98 (1.83)	2.78 (2.03)
14	乱暴な運転をする人がいること	2.95 (1.81)	3.32 (1.87)	2.98 (1.85)	2.03 (1.76)
15	深夜に暴走族がうるさいこと	2.35 (2.29)	2.14 (2.26)	1.97 (1.90)	2.18 (1.94)
16	本屋で読んだ本を元に戻さない人がいること	3.44 (1.83)	3.53 (1.93)	3.52 (1.83)	2.25 (1.87)
17	混雑した車内で座席に荷物を置いたままの人がいること	4.05 (1.86)	4.62 (1.53)	4.13 (1.61)	2.03 (1.78)
18	順番待ちの列に割り込む人がいること	3.49 (2.05)	4.05 (1.82)	4.03 (1.63)	1.97 (1.92)
19	戦争が行われていること	2.16 (2.08)	2.14 (2.27)	1.98 (2.14)	1.50 (1.77)
20	人を殺す人がいること	2.37 (2.17)	2.23 (2.15)	2.33 (2.10)	1.28 (1.76)
21	児童虐待があること	3.67 (2.06)	3.12 (2.21)	3.37 (2.06)	1.45 (1.92)
22	未成年者が凶悪犯罪を起こすこと	2.93 (2.08)	2.71 (2.07)	2.48 (1.89)	1.52 (1.80)
23	貧富の差があること	1.68 (1.92)	1.59 (1.91)	2.00 (2.09)	2.45 (1.90)
24	弱い者いじめをする人がいること	2.96 (1.91)	2.91 (2.03)	3.27 (1.95)	1.72 (1.77)
25	世界の中で飢饉が存在すること	2.35 (2.10)	2.59 (2.12)	2.53 (2.02)	1.60 (1.88)
26	核兵器を保有している国があること	1.74 (1.93)	1.98 (2.12)	1.72 (1.86)	1.28 (1.78)
27	税金が高いこと	2.09 (1.88)	2.23 (1.87)	2.32 (1.95)	2.12 (1.98)
28	土地が高いこと	1.91 (1.57)	2.02 (1.93)	2.28 (1.91)	1.92 (1.83)
29	銀行で手数料を取られること	1.77 (1.78)	1.88 (1.99)	2.40 (2.16)	2.30 (1.90)
30	学費が高いこと	2.81 (2.07)	2.42 (2.02)	2.42 (2.02)	2.27 (1.96)
31	銀行の利息が少なすぎる	2.00 (1.81)	2.09 (2.00)	1.90 (1.84)	2.05 (1.74)
32	分かりにくい授業をしている先生がいること	3.58 (2.14)	3.77 (1.92)	3.47 (2.06)	2.03 (1.99)
33	携帯電話の料金が高いこと	2.16 (2.00)	2.70 (1.98)	3.23 (2.22)	2.35 (1.99)
34	自分の考えをおしつける人がいること	2.70 (2.14)	3.17 (1.86)	3.33 (1.81)	2.62 (2.16)
35	自分の責任を他者に転嫁する人がいること	2.91 (2.08)	3.26 (1.82)	3.22 (1.75)	2.00 (1.85)
36	自分の責任を果たさない人がいること	3.04 (1.95)	3.41 (1.72)	3.25 (1.82)	2.20 (1.99)
37	相手によって態度を変える人がいること	2.32 (2.10)	2.91 (1.95)	2.47 (1.69)	2.62 (2.03)
38	嘘をつく人がいること	2.19 (2.10)	2.80 (1.90)	2.80 (1.73)	2.47 (2.00)
39	常に自分が正しいと思こんでいる人がいること	2.21 (2.19)	2.80 (2.02)	2.50 (1.72)	2.52 (2.03)
40	約束を守らない人がいること	2.68 (2.25)	3.41 (1.95)	3.32 (1.79)	2.22 (1.97)

Table 5 社会的公正事態の4類型における4つの対処方略の有効性の記述統計量

社会的公正事態 の類型	第三者への対処要求	当事者への対処要求	自己の行動的対処	自己の情緒的対処
	の有効性 Mean (SD)	の有効性 Mean (SD)	の有効性 Mean (SD)	の有効性 Mean (SD)
公共的不公正事態	3.14 (1.92)	3.56 (1.86)	3.22 (1.82)	2.14 (1.84)
人道的公正事態	2.48 (2.03)	2.41 (2.11)	2.46 (2.01)	1.60 (1.82)
経済的不公正事態	2.33 (1.89)	2.44 (1.96)	2.57 (2.02)	2.15 (1.91)
対人的公正事態	2.58 (2.12)	3.11 (1.89)	2.98 (1.76)	2.38 (2.00)
社会的公正事態全体	2.77 (1.97)	3.06 (1.93)	2.92 (1.88)	2.07 (1.88)

自己の行動的対処、自己の情緒的対処の4つの対処方略ごとの有効性の記述統計量を算出したところ、Table 5 のとおりになった。社会的公正事態の各類型についてそれぞれの対処の有効性の平均評定値をみると、公共的不公正事態は他の公正事態よりも対処の有効性の程度が高いことが分かる。公共的不公正事態は、何らかの対処をはかることで改善が期待されていると言える。その反対に、人道的公正事態の対処の有効性の程度は低い。人道的公正事態はいかなる対処をはかろうとも事態の改善がすすまないと思込んでいるのであろう。

さらに、社会的公正事態全体における4つの対処方略間で、その有効性の評価が異なるのかを検討するために *t* 検定をおこなった。その結果、対処方略の有効性に関しては、第三者への対処要求と自己の情緒的対処 ($t = 3.487, df = 115, p < .01$)、当事者への対処要求と自己の情緒的対処 ($t = 4.757, df = 124, p < .001$)、自己の行動的対処と自己の情緒的対処 ($t = 4.158, df = 118, p < .001$) においてそれぞれ有意な差が認められた。くわえて、社会的公正事態の4類型それぞれにおける4つの対処方略間で、その有効性の評価に差異がみられるのかを検討するために *t* 検定をおこなったところ、以下のとおりになった。

1) 公共的不公正事態では、第三者への対処要求と自己の情緒的対処 ($t = 4.610, df = 115, p < .001$)、当事者への対処要求と自己の情緒的対処 ($t = 6.525, df = 124, p < .001$)、自己の行動的対処と自己の情緒的対処 ($t = 4.891, df = 118, p < .001$) において対処の有効性の程度にそれぞれ有意な差が認められた。

2) 人道的公正事態では、第三者への対処要求と自己の情緒的対処 ($t = 3.461, df = 115, p < .01$)、当事者への対処要求と自己の情緒的対処 ($t = 3.047, df = 118, p < .01$)、自己の行動的対処と自己の情緒的対処 ($t = 3.368, df = 118, p < .01$) において対処の有効性の程度にそれぞれ有意な差が認められた。

3) 経済的不公正事態では、いずれの対処方略間においても対処の有効性の程度に有意差が認められなかった。

4) 对人的公正事態では、当事者への対処要求と自己の情緒的対処 ($t = 2.544, df = 124, p < .05$)、自己の行動的対処と自己の情緒的対処 ($t = 2.135, df = 118, p < .05$) において対処の有効性の程度にそれぞれ有意な差が認められた。

これらのことは Table 5 に示した平均評定値と合わせてみれば、自己の情緒的対処は他の対処よりも、その有効性は明らかに程度が低い。これは、先述の社会的公正事態40項目における結果と同様に、根本的に事態改善が望めなかったり不可能であると判断したりする際の対処が自己の情緒的対処であると考えられる。

統合的考察

社会的公正事態がネガティブな感情を喚起するなら、その緩和のための処理は重要かつ必須の作業と言える。本研究では、人が社会的公正事態に直面した場合に何らかの対処方略を有するののかという間に端を発し、その対処方略を4つ見いだした。そして、社会的公正事態の4つの類型についてそれぞれの対処方略の有効性の程度に差異があること

を示した。

ただ、その対処方略の有効性の程度に差異がみられたこと以上に、その程度がいずれも低いという事実が明らかになった。つまり、人は種々の不公正事態に対して何らかの対処方略を用いるものの、その対処の効果を低く見積もっているということである。

その理由としては、事態改善の根本的な対処は自己にとってきわめて大きな負担になり実行が困難であることから、社会的な不公正事態により喚起されたネガティブ感情を簡易的に低減させる対処を選択しているからだと推察される。人は、不公正事態の直接的改善といった実質的有効的対処よりも自身の否定的感情の一時的解消を優先するのかもしれない。

付記

本研究の一部は日本心理学会第75回大会で発表された。

参考・引用文献

中村慎佑・西迫成一郎・森上幸夫・桑原尚史「社会的公正判断過程における公正さの基準の分析 - 社会的公正判断過程に関する研究 (2) -」、『関西大学総合情報学部紀要 情報研究』第25号、Pp.13-33、2006年。

中村慎佑・西迫成一郎・森上幸夫・桑原尚史「社会的な不公正事態の類型化およびそれに対する感情反応 - 社会的な不公正感の喚起過程およびその影響過程 (6) -」、『日本心理学会第72回大会発表論文集』、P278、2008年。